

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

6

明日を拓く — 成果を検証する —

令和2年 No.1300



令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品

「ちいきのかたとたけのこほり」

周防大島町立三浦小学校 2年生(受賞時) 佐々井 梨歩

■小中一貫教育

萩市立大島小中学校	校長	横沼 潤一
防府市立富海小中学校	校長	五島 均

■新たな職務を担う【校長】

美祢市立大田小学校	校長	池田 洋一
下関市立小串小学校	校長	石田 祐子
岩国市立岩国西中学校	校長	山根真奈美
萩市立川上中学校	校長	佐伯 崇志

■新たな職務に就いて【教頭】

柳井市立柳東小学校	教頭	山本 英子
光市立上島田小学校	教頭	村中 俊之
周南市立秋月中学校	教頭	室谷 雄二
宇部市立東岐波中学校	教頭	岩崎知恵子

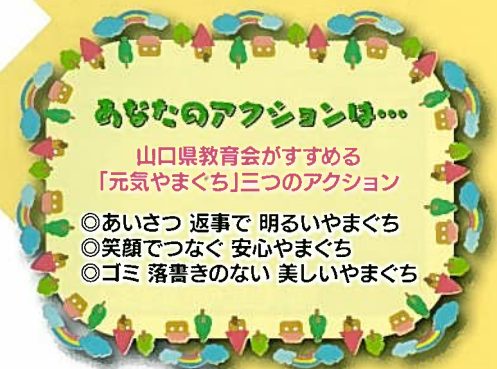
■ご案内

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoikuk.or.jp> E-mail ykoyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



「小中一貫教育」でふるさと未来を創る人材を育てる



萩市立大島小中学校

校長 横 沼 潤 一

本校の概要

本市大島は、萩港から約8kmのところにある離島です。古くから漁業と農業で栄えたこの島も、近年は人口減少と高齢化の波が押し寄せています。大島小学校と大島中学校は、かつては隣接する二つの学校でしたが、平成二十二年期末に施設一体型の新校舎が完成し、併設の小学校・中学校になりました。

新校舎への移転を機に学校教育目標を統一し、小中連携教育の取組をスタートさせました。

平成二十七年よりコミュニティ・スクールとなり、さらに平成三十年から萩市内に現在六校ある「萩市立小中一貫教育校」の一つとなつて、今年度で三年目を迎えています。

小中一貫カリキュラム「萩大島ふるさと創造科」

小中一貫教育校になるにあたり、学校教育目標や「めざす児童生徒像」を見直したことに加え、これまで伝統的に行われていた学校行事やそれに伴う学習をキャリア教育の視点で捉え直しました。当時の中学生は学校運営協議会に参加し、委員や教員と一緒に地域の現状と課題を分析しました。同じ分析を、当時の小学五、六年生も授業の中で行いました。

児童生徒が考えたことをもとに、地域の未来を担う人材の育成をめざす教科横断的小中一貫教育カリキュラム「萩大島ふるさと創造科」を創設しました。新たな取組として始めた「ふるさと大島学習」では、

小学三年生から中学三年生までの児童生徒が四つの縦割り班に分かれて、「大島の魅力化」に挑戦する学習を続けています。小学生と中学生が一緒になって知恵を絞り、様々な企画を考え実行する学習活動は、小中一貫教育校ならではの取組と言えます。

授業や行事における取組

令和二年度の児童生徒は、四十二名(小学部二十七、中学部十五)で、複式学級があります。小学部の授業では高学年の授業の一部を中学部の教員が担当することで、複式解消や教科担任制を実現しています。

また、運動会を合同で実施するなど、古くから行事における小中連携は頻繁に行われていました。新校舎になってからは、入学式や卒業式、文化祭等あらゆる行事やその練習を一緒に行っています。

教職員のつながり

小規模校では教員が多くの校務分掌を抱えています。小中の同じ分掌を担当する二人が協力しながら行



小5～中3で行うビブリオバトル(書評合戦)

事等の企画立案等を行っています。

校内研修における授業研究会は、小中合同で行います。中学部の教員が小学部の複式授業から授業の仕組み方を学んだり、小学部の教員が中学部の授業から教科の専門性を学んだりできるので、研究授業前後の話し合いでは意見が絶えません。

小中の教員が互いの取組を日常的に見られる本校の教育環境は、児童生徒の九年間の学びを考える上で、たいへんありがたいです。

九年間の学びをつなぐ思い

私は、これまで主に中学校で勤務してきました。中学校教員にとつて中学一年生の姿はとても幼く、またかわいらしく見えるものです。「指示がないと動けない」という思いから、入学当初に中学校のきまり等を必要以上に厳しく指導しがちで、彼らの小学校で培われた主体性やリーダー性をあまり認めていなかっただようように思います。

今年の本校の中学一年生もとても初々しいのですが、昨年度小学部のリーダーとして活躍していた姿を思い返すと、新しい制服を身にまとった姿はどことなく大人びて見え、頼もしくも思えます。そして、中学一年生にかける声が以前と異なる自分に気付かされます。

小学校の教員にとつても、自分たちが送り出した子どもたちが、中学入学後すぐに活躍する姿を目にすることは、とても励みになります。三年前、当時の中学生と同じように地域の現状を分析した小学五、六年生は、今年度それぞれ中学二、三年生になりました。彼らがこの間に学んだことや感じたことを生かした今年度の取組に、本校教職員もワクワクしています。



円卓議論の後の発表

つなぐ学校！つながる未来！

地域とともに創る富海小中学校

誰もが誇れる「富海ブランド」の発信



防府市立富海小中学校

校長 五島 均



マスコットキャラクターとのみん

防府市富海は瀬戸内海に面し、北は市内最高峰の大平山の裾野に広がる人口約一九〇〇人の地域です。古くは漁港や旧山陽道などを中心に交通の要衝として栄えました。幕末には多くの志士たちが漁船から発進した「飛船」ののって大阪に向かったと言われています。激動の時代の記憶は今も町並みに残り、豊かな自然と歴史・文化が薫る地域です。子どもたちは温かい地域に支えられ、いきいきとした学校生活をおくっています。

小中一貫教育校までの歩み

学校の魅力を実感する取組

本校は、富海中学校と富海小学校が隣接し、以前から小中学校が連携して様々な教育活動を行ってきました。その間、小中各学校運営協議会や育友会の統合、職員室の統合、小中連携カリキュラムの作成、小規模特認校として市内全域からの児童生徒募集等、実質的な小中一貫教育を進め、平成三十年度からは小中学校併設型の「防府市立小中一貫教育校 富海小中学校」として再出発をしました。今年度の学校教育目標を「つながりを大切にし、志をもち学び続ける児童生徒の育成」と定め、魅力ある学校づくりのため様々な特色ある取組を行っています。

【魅力1】九年間を通じたカリキュラムの充実

本校の一番の魅力は小規模の特性を生かし、九年間を見通したきめ細かな教育カリキュラムです。特に外国語（英語）教育には十年以上前から取り組

み、小一から外国語活動に親しみ、A・L・Tの常駐、英語に親しむ掲示、海外の方との交流、英語劇など英語を日常的に使用して表現する活動を行っています。また、運動会や文化祭などの小中合同行事の実施や、小中教職員の相互乗り入れ授業を行うことで小中学校の指導内容の一貫性を図ることができ、同時に児童生徒理解にもつながっています。

【魅力2】豊かな自然の特色を生かした教育活動

富海海岸は地域の宝です。地域ではこのきれいな海を保つために、地域・事業所・学校が一体となって毎年、富海クリーン作戦を行い、小中学生が合同の縦割り班を編成し、力を合わせて海浜清掃を行っています。また、海岸で行うはまの集いや海開きボランティア活動は、子どもたちに富海への愛着心を育てる絶好の機会となっています。一方、北側の高台からは瀬戸内海の絶景が見渡せます。山麓には琴音の滝もあり、その遊歩道の整備には中学生も一役かかっています。

【魅力3】地域の人材に支えられた教育活動

富海を愛する地域の皆様には、藍染め体験、



文化祭での英語劇

令和2年度グランドデザイン



小中一貫教育校の魅力を発信する責任

諸先輩方をはじめ、多くの方々のご尽力で本校の小中一貫教育も少しずつ充実してきました。しかしながら新学習指導要領で求められている「社会に開かれた教育課程の実現」や働き方改革の推進による持続可能な学校運営には、今も試行錯誤の連続です。小中一貫教育推進にあたり「二つの学校を作らない」という関係者の共通認識がとても重要と感じています。そのために関係者間でめざす子ども像を共有すること。小、中学校の良さを生かしつつ、「一つの学校」として九年間を見通して、子どもとの学びと人のつながりを大切にしていくこと。この二つを軸とした学校運営を推進したいと思えます。毎日、子どもたちの九年間の育ちを実感できる小中一貫教育校だからこそ、これからも「富海だからできること」「富海だからこその、これからも「富海だからできること」「富海だからこその、これからは、学校（児童生徒、教職員）・家庭・地域が誇りをもち、それを富海ブランドとして発信していきたいと思えます。

農業体験や図工指導、習字・俳句指導や歴史学習、町探検、放課後子ども教室など多くのご支援をいただいています。また、富海地区活性化協議会においても地域づくりの一環として、本校の魅力を発信するための様々なご支援をいただいています。この協議会では昨年度からは本校の空き教室を地域に開放し、地域の皆様の学びと児童生徒がふれあう機会をつくるプロジェクトも始まっています。

転職時の思いを持ち続けて



美祿市立大田小学校
校長 池田 洋一

三十六才の時に民間企業から教員に転職し、家族と一緒に大阪から山口に来ました。

初任校は、萩市立明倫小学校。木造校舎が四棟並ぶ、吉田松陰先生の教えを大切にされた歴史と伝統を感じる素敵な学校でした。転職して一番驚いたことは、教員の多忙さ。日々なんと忙しいことか。四月初めの職員室は、バブル期の証券取引所を思わせる雰囲気、会議の多さ、事務量の多さに驚きました。授業準備は深夜または早朝。平均睡眠時間は三時間。学校現場の大変さについて本を書きたいと思ったほどでした。

転職の主な理由は、IT化が急速に進展する社会の中で、私が受けてきた知識偏重の教育だけでは社会人として通用せず、今後必要なのは、社会を生き抜く知恵や先を見通す力、ICT機器等を活用したプレゼンテーション能力、外国人とのコミュニケーション力、グローバルな視野で物事を捉え判断する力などであると、身をもって感じたからです。そして、それを契機に、学校教育に関心をもち、働きながら夜間大学で免許を取得し、山口県に採用されました。

教員になつてからは常に、社会で必要な資質や能力を意識して、授業づ

くりや生徒指導に努めてきました。

今、校長として私が取り組むべきことは、転職時の思いを持ち続け、組織力を生かしたキャリア教育を推進し、子どもたちに「未来を切り拓く力」を育むことです。着任した大田小学校には、目的意識をもって熱心に指導する先生方がいます。質の高い教育ができるように支援してください。保護者や地域の皆様がいいます。私は、それぞれの思いやよさをつなぎ、協働体制を強め、学ぼう、伸びようとする大田小学校の子どもたちが、未来の社会で生き生きと活躍できるように、今後必要になる資質や能力を家庭・地域と連携・協働して育んでいきたいと考えています。



学校再開を待つ校舎と花壇の花々

たくさんの声から感謝つづ



下関市立小串小学校
校長 石田 祐子

「学校、家庭、地域が繋がりが合い、関わり合いながら、学校や地域の願いを実現させるために、地域と共にある学校づくりを行っていきます」。市の着任式で、あいさつさせていただいた言葉だ。今年度のスタートは、例年にも増して、児童が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域が力を合わせて取り組むことの重要性を実感した。

小串小学校は、豊かな自然と温かい地域に恵まれた素敵な学校だ。校舎に入るとすぐに新種に認定された「ヤマグチサンショウウオ」に出会うことができる。中庭には、国指定天然記念物である「エヒメアヤメ」が可憐な花を咲かせ、元気に飛び跳ねるうさぎもいる。他では体験できない環境に恵まれている。明るく元気な子どもたちは、笑顔キラキラさせながら、

温かい地域の方々に支えられたり、ご指導していただいたりして、豊かな小串の自然についてより深く感じ取っている。その中で子どもたちは、地域の

よさを自分なりに解釈し、自分の夢や希望を実現させるための人間力を培うこと、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質能力を身に付けていくことができるのだと思った。

始業式、入学式後に臨時休校となり、全校児童と過ごしたのは、まだ一日しかないが、午前中に受け入れている児童の様子を見ながら、学校生活を思いつき楽しむことのできる日々が戻ってくることを強く願わずにはいられない。登下校の安全を見守ってくださる方々、児童の学習環境を整える支援をしてくださる方々など、たくさんの方々の支援して下さる方々に感謝しながら、最善の備えをしていきたい。



天然記念物「エヒメアヤメ」

自分らしく



岩国市立岩国西中学校
校長 山根 真奈美

いつもの春と違い、緊張感いっぱい
でスタートした四月。初日、学校に
出勤すると、生徒数名が黙々と清掃
活動をしていた。「おはようございます」
あちこちから気持ちのよい挨拶が聞こ
えてくる。職員室に入ると数名の先
生方がすでに忙しそうに活動をしてい
た。同じく気持ちのよい挨拶。そして、
全力で働いている。「とても良い学校
だな、これが最初の感想だ。」

慣れてくるといろいろなことが見え
てくるが、この印象は今も変わって
ない。昨年度から生徒数が減少し、
教員数も減った。全体的に若い教員
が増えたということだが、フレッシュ
アップで意欲的だ。臨時休校中には家庭科
の教員が、再開したら生徒とマスク
を作りたいとその準備に余念がない。
近く入院予定の教員は、入院中に生
徒とテレビ電話で会話したいと、楽し
そうに準備中だ。

入学式の日は大勢の地域の方が来
てくださった。その日以降も何人も
保護者や地域の方と話をする機会が
あった。直々に校長室に話をしに来て
くださる方もおり、地域行事などの
取組や課題などを知ることができた。
「昨年度は小中合同の運動会を初め
て実施し、大変良かった」「いろいろ
なお祭りに生徒が参加し協力してく

れて、助かっている」など。まだ、十
分に学校や地域のことがかわかってい
ないが、こうした方々の力を借りながら
進めていけば間違いないと感じた。

さて、今年の私の目標だが、一つは「生
徒を認め、ほめることを大切にしま
ら、学力向上を図る」こと。そして、
「誰もが来たいと思える学校を目指し、
まずは来校者数を増やす」ことを考
えている。これまでの校長先生方が築
いたものを礎に、自分らしさを発揮し、
新しい岩国西中学校を創り出していき
たい。



コンパクトでモダンな校舎

チーム川上として



萩市立川上中学校
校長 佐伯 崇志

萩市内から約10km阿武川を遡った
川沿いに川上中学校があります。学
校の周りには、四季折々の風景があり、
自然豊かな環境の中、今年度は全校
生徒七名でスタートしました。

川上地域には、川上保育園、川上
小学校、川上中学校があり保小中連
携事業として、定期的に集まりをもち、
川上の子どもの育ちを一つの方向に向
けて、それぞれの立場で支援しようと
しています。

また、平成三千年度末に、学校・家庭・
地域の三者が集まって熟議を行い、学
校教育目標を「川上愛をもち、明るく、
たくましく、しなやかに生きる川上つ
子の育成」としました。令和元年度
から、小中がこの教育目標をもとに、
様々な教育活動を行ってきました。

保小中の子どもと地域ぐるみの活
動として合同運動会、乳幼児・お年
寄りふれあい交流、鮎釣り大会、長
門峡清掃、カヌー川下り、阿武川太
鼓などがあります。特にカヌー川下
りについては、阿武川ダムの上流下
りにやまぐち団体のカヌー競技のコ
ーストがあり、世界選手権のメダリストが
萩市在住であることから、カヌー教
室を行い、その締めくくりとして阿
武川の河口までカヌーで下るとい
う特色ある取組です。

このように保育園から小学校、中
学校と一貫した目標を基にした取組と
それを支えてくださる保護者や地域
の方々への援助により、子どもたちは
とても素直で、すくすくと成長してい
ます。ただ、子どもの人数が少なく、
令和元年度は、離島の学校を除いて、
県内でも最も生徒数の少ない中学校
でした。

そこで、本年度は地域の魅力探究・
魅力発信と地域を舞台に学ぶ課題探
究・解決型学習として、中学校で
は起業体験学習（地域の魅力を探
究し、広げ、未来を提言する）を行
い、生徒にふるさと川上を愛し、ふる
さとへの担い手になるようとする意
識を育てる取組をスタートさせま
した。

この取組を
引き継ぎ、川上
の子どものより
よい成長と、地
域の活性化ため
に、これから川
上中学校で精一
杯がんばってい
きたいと思っ
ています。



カヌー川下り



地域とともに
「1チームの学校づくり」をめざして

柳井市立柳東小学校

教頭 山本 英子

四月二日、新任教頭に命ぜられた初めての任務は地域の方への入学式規模縮小の電話連絡であった。右も左もわからない若葉マークの教頭に「大変ですね、教頭先生。一緒に頑張ってくださいませう」という温かいお言葉をかけていただき、胸が熱くなった。同時に、柳東小が地域に根づき、愛されている学校であると感じた。そして、チーム柳東小の二員としてこれから一杯頑張っていくと決意を新たにしました瞬間でもあった。

柳井市は教育目標「愛、夢、志をはぐくむ教育」のもと、「スクールコミュニティ」による教育のまちづくりがすすめられている。本校は柳井市東部に位置し、児童二百三名、小学級の中規模校である。特色は何といつても芝生のグラウンドである。休み時間には子どもたちが裸足で元気にグラウンドを駆け回っている。これもすべて地域の「芝生の会」の方々が維持・管理してくださるお陰である。

中学校教員としてこれまで勤務してきた私にとって、小学校への赴任は驚きと戸惑いの連続である。自分と与えられたこと、そして自分ができることは何なのか。それは「繋ぐ」とだと考えている。小学校と中学校、学校と地域、そして学校の司令塔で

ある校長先生とその運営に携わる先生方との「パイプ役」である。

臨時休校を余儀なくされている今、本校ではホームページに担任による学習画面の掲載を行った。校長先生発案のもと、若手教員が率先してその役を担った。すぐに地域の関係者から「見ましたよ。子どもたちは喜びますよ」という連絡をいただいた。「これだ！」と思った。

学校教育目標「志をもち、進んで学び、地域を愛する柳東つ子の育成」の実現に向けて、1チームの学校づくりに全力で取り組んでいきたい。



自慢の芝生グラウンドでの柳小タイム



三つの連携の充実をめざして

光市立上島田小学校

教頭 村中 俊之

上島田小校区は東にはよく繁茂した森を育てている鶴羽山、西には豊かな流れの島田川があり、自然環境に恵まれている。

連携の一つ目は「地域と」である。あいさつ回りで校区内を巡る中、地域や保護者の方の温かさに触れることができた。笑顔で接していただく姿から、学校の活動に協力的な面が十分に伺えた。伝統的な相撲大会やプログラミング学習など様々な教育活動に指導者として携わっておられることから、地域や保護者の方の協力があつてこそ学校の運営だと感じた。地域ととも

にある学校の充実を目指して、地域との連携のためのパイプ役としてがんばっていくと思う。

連携の二つ目は「教職員と」である。新たな仲間と連帯感を感じながら今の難題にともに取り組んでいる教員としての校務が多岐に渡っていることから最初はとまどいが多かったが、校長先生を初め、たくさんの方々に教えていただきスムーズに仕事に取り組むことができた。

三つ目の連携は「小中連携と小中一貫教育」である。光市では今年度から小中一貫教育がスタートした。これまでの小学校同士の横のつながりと中学校との縦のつながりの積み重ねを生

かし、コーディネーターとして連携を強化できるように努めていきたい。

原稿を書いている現在は新型コロナウイルス蔓延防止のために臨時休業が続いている。地域や保護者の方からは折にふれて学校再開に向けてのエネルギーが届いている。このような時こそ、三つの連携の充実を図っていくことで、学校運営を支えていくことができると考えている。



伝統のすもう大会

明日に向かって



周南市立秋月中学校

教頭 室谷 雄二

桜は満開を迎えているのに、街に人影はまばらである。校庭や校舎から生徒の声は聞こえない。令和二年二月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響である。このような危機的状況の中、本校に赴任した。

徳山湾沿いに林立する石油コンビナート群を眼下に見下ろす小高い丘の上に位置している本校は、昭和五十九年四月に周陽中学校から分離・新設する形で開校した。令和二年度は、小中が連携した秋月教育を地域とともに推進することをめざし、「夢をもつてたくましく生きぬく秋月つ子の育成」という学校教育目標に統一し、生徒を主体とした新たな伝統づくりに学校あげて取り組んでいるはずであった。

しかし、その後のほとんどの行事が中止・延期された。生徒の姿を目にすることのないまま、これまで経験したことのない異例な形で「新たな職務」が始まった。「教頭先生」と声をかけられるたびに「ドキリ」とする。校内の様子も、教頭の職務も分からない私に、様々な仕事が無い込む。右往左往したあげく、結局先生方の手助けがなければ何も解決しない日々である。そう、これは初めて教壇に立つたあの時と同じ光景である。何もで

きない私を「先生」と呼んでくれる子どもたち。あれから約三十年の月日が過ぎた。

世の中の危機的状況と何もできない私。今こそこの危機的状況をチャンスに変えよう。物事の本質を見極め、誠実に取り組もう。これまでの常識にとらわれない新たな視点で、取組を始めるチャンスと捉えよう。

この原稿が掲載される頃には、校舎に元気のよい生徒の声が聞こえることを願いつつ「夢をもつてたくましく生きぬく秋月つ子の育成」のために、先生方の力をお借りしながら、教頭としての役割を果たしていきたい。明日に向かって。



元気のよい生徒の声が響く目を願う

生徒の笑顔のために



宇部市立東岐波中学校

教頭 岩崎 知恵子

三月からの突然の臨時休校・卒業式そして離任式。これまでに経験したことのない雰囲気の中、新たな学校で教頭として新年度を迎えた。

しかし、道沿いの色鮮やかな花や青い海、そこで出会った活力あふれる教職員や元気で明るい挨拶をしてくれる生徒たちが、今までの重い空気を一気に吹き飛ばしてくれた。

「わからないことも多いでしょう」と、すぐに集まり親切に教えてくださったPTAの方々からは、生徒の活動を支えたいという熱意を感じた。

「自らあいさつ」「自らベル着」「自らそうじ」のチャレンジ目標のもと新学期がスタートした。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全員がマスクを着用して顔が見えないが、話を聞くまっすぐな瞳、黙々と掃除する姿、授業での素直な取組、友だちとの楽しそうなやりとり、学校中を囲む花壇の花などからこれまでの本校の活動を理解することができた。

今は、コロナの影響で保護者・地域の方々と接する機会もない。できないことも多いが、そんな中だからこそできることを工夫して実践していくのが我々の使命である。

教職員は、生徒に関する様々な対

心や情報を丁寧かつ迅速に報告・連絡・相談してくれる。再び休校になった日々も、環境整備や教材づくりに研修に熱心である。熱く温かい教職員に日々感謝の気持ちが大きくなる。

私は、まだ頼りない存在であるが、まずは笑顔で生徒・教職員・保護者・地域の方々の想いを繋いでいきたい。学校そして地域で、いきいきと活動している生徒の笑顔を見るために。



正門に校訓「自主・協同・実践」が刻まれた石碑が建つ

第33回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

1 趣 旨

人や自然、文化とのかかわりを独自の心象でとらえた金子みすゞの心が蘇るような感性豊かな童謡詩・自由詩を募集します。

- ### 2 募集部門
- (1) 小学生の部
 - (2) 中学生の部
 - (3) 高校生・一般の部

3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のもので一人2編までとします。
- (2) 応募作品は、A4判の所定の用紙に縦書きとし、1編が2枚以上の場合は右上をとじてください。
- (3) 応募用紙に①募集部門 ②住所 ③電話番号 ④氏名 ⑤題名を明記してください。

児童生徒は、学校名・学年、氏名、題名のみ記入してください。

*応募用紙の様式を、冊子「山口県教育会の学校等連携について」と山口県教育会ホームページに掲載しています。

*応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

- ### 4 送付先
- 一般財団法人山口県教育会
〒753-0072 山口市大手町2-18

- ### 5 応募締切
- 令和2年9月10日(木)

6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞)：全部門から1編
優 秀(山口県教育会長賞)：各部門ごと1編
佳 作：各部門ごと数編
学校賞：全応募校から1校

7 審査結果

- (1) 令和2年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。
- (2) 最優秀・優秀受賞者は、令和2年11月7日(土)に下関市で開催される「第19回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

第12回「わたしの志」作文募集

1 趣 旨

将来を担う児童生徒が「わたしの志」をもって明日を拓く力を身につけ、たくましく生き抜いていこうとする作文を募集します。

2 募集部門

- (1) 小学生の部(4年生以上) 1,200字以内
- (2) 中学生の部 2,000字以内
- (3) 高校生の部 2,000字以内

3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のものに限ります。
- (2) 作文用紙の1行目に題名、2行目に学校名・学年、3行目に氏名を明記し、4行目から本文を書いてください。

*内容に添った題名を付けてください。

*応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

*100作品以上応募される場合は、事前に山口県教育会の担当にご相談ください。

- ### 4 送付先
- 一般財団法人山口県教育会
〒753-0072 山口市大手町2-18

- ### 5 応募締切
- 令和2年9月10日(木)

6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞)：全部門から1編
優 秀(山口県教育会長賞)：各部門ごと1編
優 秀(松風会理事長賞)：全部門から1編
佳 作：各部門ごと数編

7 審査結果

- (1) 令和2年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。
- (2) 最優秀・優秀受賞者は、令和2年11月7日(土)に下関市で開催される「第19回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため「第二回支部長・事務局長会」(三月六日)と「参与会」(四月二十四日)を、中止し、関係者に会議資料を送付しました。主な会議資料は次のとおりです。

- ・令和二年度活動方針・事業計画・収支予算
- ・第七十四回日本連合教育会山口大会(素案)
- ・支部活動の状況
- ・令和元年度教育研究・地域活動等助成事業
- ・令和元年度会員状況等

お知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な事業やイベントの開催が見直されています。

このような中で、令和二年八月六日(木)・七日(金)に開催を予定していました「第十一回青年教師の集い」を中止とさせていただきます。

また、八月二十日(木)・二十一日(金)に開催が計画されていましたが「第七十二回日本連合教育会研究大会香川大会」は、日本連合教育会から令和三年八月十八日(木)・十九日(金)に延期する旨の連絡がありました。このことに伴い、次期開催地区がずれ込み「第七十四回日本連合教育会研究大会山口大会」は令和五年度に開催の運びとなりました。令和三年度に改めてご案内をさせていただきます。



花の苗の植え付け (由宇支部)

終身会員の紹介

朝原 嘉彦 様(下関) 河井 正敏 様(山口)
小川 寛 様(光)